

日本におけるコレクティブハウスの第一号 かんかん森

「コレクティブハウス かんかん森」は、日暮里駅から徒歩約 15 分、日暮里中学校の跡地に建設された複合居住施設「日暮里コミュニティ」の中にある。保育園、クリニック、高齢者住宅と同居しており、多世代居住の場になっている。「かんかん森」は 12 階建ての建物の 2～3 階にあり、大小さまざまな間取りの 28 戸の住戸と豊かな共用スペースで構成されている。

天井が高く、広く、明るい「かんかん森」のコモンダイニングで、居住者組合「森の風」のお二人からお話をうかがった。



かんかん森正面

一見普通の建物に見えるが、中はコレクティブハウスならではの造りとなっている。

■日本初の居住者自主管理型のコレクティブハウス

コレクティブハウスとは、共用の食堂や共用のリビングを充実した住宅で、個別の暮らしを大切にしつつ、居住者による運営参加により共同生活を行う住まい方である。1960 年代にスウェーデンで活動が始まり、80 年代に実現した。日本には、1988 年に建築家で日本女子大住居学科教授の小谷部育子氏(故人)が紹介したのが始まりである。小谷部さんを含む有志グループ A L C C が、日本にコレクティブハウスを実現するための活動を続けて 10 年が経った西暦 2000 年、株式会社生活科学運営の高橋英與氏(当時)から、日暮里のこのプロジェクトに参加しないかとの声がかかった。小谷部さんを中心に N P O 法人コレクティブハウジング社を設立し、入居希望者を募り、ワークショップを開催して、コモンスペースや居室のデザイン、運営方法、生活のルールなどをみんなで話し合っ決めていった。そして、2003 年 6 月、日本では初めてのコレクティブハウス「かんかん森」がオープンしたのである。

「かんかん森」は、居住者組合によって自主管理、自主運営が行われている。共用スペースの運営方法などは管理者ではなく居住者が自ら話し合って決め、自分たちで運営している。2007 年からは、居住者の有志たちが設立した株式会社コレクティブハウスが「かんかん森」を一括で借上げ、居住者組合と協力しながら運営をしている。賃貸なのに、もはや「自分の家」といってもよい。

■コレクティブハウスならではの豊かな共用スペースでの暮らし

「かんかん森」には 160 m²以上のコモンスペースがある。コモンダイニング、コモンキッチン、キッズスペース、ゲストルーム、ランドリーコーナーなどがある。屋外では菜園テラスのプランターには野菜が育ち、木工テラスではDIYでの家具の制作などが出来る。一般の集合住宅にはみられない豊かな共用空間がある。特に、40 人以上が着席できるコモンダイニングは圧巻だ。みんなが集まれる広い空間である。

ここでは週に2～3回、居住者たちが夕食を共にするコモンミールが行われる。生活の大事な一部である食事を共にすることで、コミュニケーションが広がっていく。食後のコーヒータイムのおしゃべりタイムは大切な時間だ。コモンミールの調理は居住者持ち廻りで担当している。新型コロナが流行ったときは一時的に中止になったとのことだが、今は復活している。コモンミールへの参加は義務ではなく申込制になっている。それでもほぼ毎回20人前後、時には30人以上の参加があるとのことだ。居住者どうしで同じ鍋を囲む暮らしは楽しそうだ。

「かんかん森」の一年は、6月の創立記念パーティにはじまり、秋祭り、ハロウィンパーティ、キッチンの大掃除、クリスマス、餅つきなど、イベントが目白押しだ。そして、その企画も運営も、居住者が分担して自主的に取り組んでいる。



コモンダイニング



キッズスペース

■「ひとりの自由×共に暮らす自由」をモットーとする暮らし方

「かんかん森」の居住者組合「森の風」はどのように運営されているのだろうか。年1回の総会では予算と活動計画などが決定され、毎月定例会を開催して日常生活に係ることを話し合っている。運営を担うためには、対外コミュニケーション、ハウスマンテナンス、コモンミール、ガーデニング、イベントなどの係やグループがあり、居住者みんなで仕事を分担している。

「かんかん森」の自主性を保つための仕組みとして「森の風憲章」がある。

1. 個々のくらしと共に住まう暮らしを大切にする
2. 一人暮らしも大家族も、子どもも大人もいきいきできる
3. 合理的でエコロジカルな生活
4. 外との交流がある、開かれた暮らし
5. いろいろな人達とふれあい、育ち、学び合える

の5か条から成る。

また、「かんかん森」は参加の意識が高い。その理由を尋ねると、見学会やコモンミール調理の参加などを経験してから入居してもらっているためではないかとのことである。

■ここで育った子供はどんな大人になるのだろう

かんかん森では毎年のように赤ちゃんが生まれるとのこと。小さなお子さんをつれて入居する人もいるのだそう。コレクティブハウスならではの共同生活による効果もあると思われるが、コモンリビング、キッズスペース、テラスなど、こどもたちが自由に遊べる空間があることは大きい。ここでは友達もつくりやすいだろうし、いろいろな大人とも知り合えるだろう。コモンミールやその他の他者との共生する機会が多く提供されるこの環境は、子供の成長にとって良い影響があるのではないだろうか。将来、きっと、みんな優しい大人になるのだろう。

コレクティブハウスは、子育てをしながら働く女性のために北欧で始まった住み方だと聞いたことがある。共働きが増えているなか、家事負担の軽減、経済性と合理性を追求したストイックな暮らし方を目指しているものと思っていた。「森の風憲章」を読み、また、実際に「かんかん森」を訪れて、ここでは自分たちの暮らしを豊かにすることを目指して、居住者自らが行動し、それを

実現している住まいだと思った。コレクティブハウスについての認識が変わった。

■これからのコレクティブハウス

「かんかん森」がオープンしてから 20 年以上が経っているが、ここでの暮らし方は、今でもとても斬新だと思う。
コレクティブハウスはメディアも注目していて記事になったりしているが、一般の人が目にする機会は決して多いとは言えず、まだまだ知られていない。こうした住まい方を知り、理解することは、自分の住生活をより豊かに暮らせる可能性を広げていくことにつながるのではないか。今後、コレクティブハウスの認知度が高まり、より多くの人の理解が広がれば、未来の若者の良い成長にも繋がる。日本の暮らしをより豊かに、多様化していく可能性を感じた。

